



心ゆたかな たくましい子

学校便り 5月号
平成29年5月2日
御前崎市立浜岡東小

言葉が人生をつくっていく

ハンバーガーショップのレジに並んでいるとふと前の方が騒がしくなった。注文した商品の一つを入れ忘れたようだ。「何しとんねん。トロインじゃお前。もうエエわ。」男性は怒りをあらわにし、店を出て行った。バイトの子は「申し訳ありませんでした。」と何度も頭を下げていた。一瞬にして店内の空気がとげとげしくなった。

2番目に並んでいたのは70歳くらいのおじいちゃんだった。バイトの子は今にも泣きそうな顔だったが、「いらっしゃいませ。こちらでお召し上がりですか？」と何事もなかったかのように接客した。

おじいちゃんは静かな声で言った。「お姉ちゃん、エライなあ。世の中にはさっきの人みたいに自分の思い通りにならんかったら怒鳴り散らす人がいる。あの人もなんか急いどったんやろう。あんなこと言われてあんたの心はもうズタズタのはずや。にもかかわらず次に並んだらわしに笑顔で接客してくれた。ありがとう。」

その言葉を聞いた途端、堰を切ったようにバイトの子の目から涙があふれ出した。わんわん声を出して泣き出した。しばらく涙は止まらなかった。

横のレジに並んでいた中年の女性が声を掛けた。「あんた、本当にいいお仕事してるわよ。」とげとげしかった店の雰囲気が一瞬にして和らいだ。

みやざき中央新聞 水谷謹人編集長著『日本一心に浸みる新聞の社説』より

言葉とは、不思議なものです。乱暴な言葉を使うと行動も乱暴になります。早口で言葉を使えば、考えもせつかちになります。そして、言葉はいったん口から発せられると、一人歩きをはじめます。(現代社会ではSNSもそうです)その人の思いとは異なった意味で受け止められてしまうこともあります。



このおじいさんや中年の女性のように、感じたままを相手に伝えることや相手の思いを汲み取って伝えることを、私たち大人は躊躇してはいけません。もしかしたら、その子の生涯を支える言葉となるかもしれないからです。

「東小の子どもたちと一緒にやってきてよかった」

今年も、1年生が正門側の空き地にひまわりの種を蒔くことになりました。御指導くださる団体は、小川忠雄さんが代表を務める『桜友会』の皆さんです。先日、打合せのために代表宅を訪ねたときに伺った話です。去年、夏にひまわり畑で雑草を抜いていた時、「きれいにしてくれてありがとう。」と声をかけてくれた子どもがいたそうです。とても嬉しくて、東小の子どもたちと一緒にやってきてよかったと思ってくださったそうです。優しい言葉は心に響きますね。

校長 岡本敦子